



社会科学研究部報

令和 7 年 12 月 15 日

浜松市教育研究会 社会科学研究部

令和 7 年度 第 3 回社会科学研究部 研修会

10 月 29 日（水）に、積志小学校、瑞穂小学校、気賀小学校の教諭が授業公開をして下さいました。授業参観後、事後研修会を行いました。

積志小学校 教諭

1 授業公開「情報を生かす産業」

「情報活用と私たちの暮らし」の単元の 7 時間目、情報活用により世の中の暮らしがどのようによくなっているのか考える授業が公開された。これまでに、児童は 4 つの身近な仕事（救急医療、薬剤師、コンビニ、運輸業）の中から、1 つを選択して学んできた。本時では、自分の選んだ仕事では、どのような場面で情報が活用されているのかを振り返りながら「働く人にとって」と「私たちにとって」の 2 つの視点から考えをまとめた。オクリンクプラスを活用することで、自分が選んでいない他の仕事での活用方法を確認しながら、グループで話し合い活動が行われた。「働く人にとって」は「入荷する個数を A I 活用して効率よく作業ができる」

「個人の情報を管理し、すぐに調べて、時間短縮ができる」など、それぞれの仕事において情報を活用するよさをまとめられた。「わたしたちにとって」は、「電子決済によりスマホだけで買い物ができる」「病院の順番待ちで自分の番号や待ち時間が分かる」など、自分たちの生活が便利になっていることについての意見が挙がった。まとめの場面では、情報活用によって社会全体の暮らしがどのようによくなっているかを一人一人考えた。「情報活用によって社会全体が発展している」「自分のためになるようなことがすぐにどこでも分かり、自分のやるべきことが効率よくできるようになっている」「今では情報活用は私たちの生活に欠かせなくなっている」などの意見が出た。



2 研究協議

身近な仕事に関わる資料の作成、C S を利用したゲストティーチャーの手配など、授業を行う上での教員の準備が子供の意欲につながったという声が多かった。子供に委ねることを意識した授業が行われており、授業者の「キーワードを探そう」という声掛けにより、共通点を探す児童の姿が見られ、学びを深めていた。一方で、I C T を活用する場面と話し合う場面を明確にしたり、考えを交流する時間を確保したりすることも必要であるという声もあった。



3 指導助言 芳川小学校 校長

指導案を読み、社会科の見方・考え方や協働的な学びがたくさん含まれている単元構想であると感じた。第一次の導入では、身近な図書室をきっかけに、考えを深めるための豊富な資料が準備されており、意欲的な学習へとつながっていた。単元を貫く学習課題が明確であったり、自己選択の機会が多く設定されていたりしたことで、児童が考えを深めることにつながったと考える。また、タブレットを使用することで声を出さない対話もあり、一つの話し合いの形であると感じた。先生の学級は、子供たちが安心して話し合える関係があり、今日の授業でも表れていた。子供たちに学びを委ねながら、教師が調整していくことで、授業の質を高めてほしい。



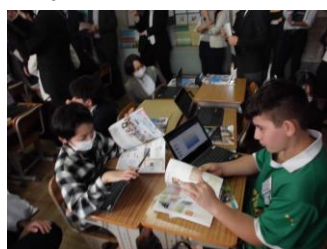
瑞穂小学校 教諭

1 授業公開「みずほ江戸学芸員になろう（江戸幕府と政治の安定）」

「江戸幕府と政治の安定」の単元の第5時間目、江戸幕府がどのようにして力を強め、政治を安定させたのかを考える授業が公開された。本授業では、江戸幕府がなぜ長期間にわたり安定した政権を築けたのかをテーマに、幕府が行ったいくつかの政策を調べ、どの政策が大きな意義をもったのかを追究した。

本授業は、自由進度学習を取り入れ、一つ一つの政策について調べる場面では、児童自らが個別、グループ、教師の講義を受けるといった「学び方の形態の選択」や、自分の進度に合わせて「学習のペースの選択」を行っていた。どの児童も主体的に学習に取り組んでおり、個別最適な学びのモデルとなる授業であった。黒板には自分や他の児童の進度、単元全体の流れが可視化されており、振り返りの中で、次時のめあてを立てていたことにより、児童は目的意識を持って、主体的に学習を進めることができていた。

学びを共有する場面では、児童同士が自然と交流をはじめ、自分が疑問に思っている点や何を手掛かりに調べればよいかなどの情報交換が行われていた。また、単元の最後に学芸員として自分の調べたことを表現する活動が示されているため、相手に興味をもってもらえるようにスライドの作り方を工夫したり、江戸時代の政策について自分なりの視点をもってまとめようとしたりする姿が見られた。



2 研究協議

教室掲示や動画資料、図書資料の準備など、教師が丁寧に社会科の授業に向き合ってきた成果が随所に見られて素晴らしかったという声が多く挙がった。また、自由進度学習での授業の進め方も、4月からの積み重ねにより、児童が主体的に学習に取り組む姿が見られてよかったという感想もあった。一方で、調べる段階でAIが要約したものを利用している児童が多く、自分の考えとして児童自身の思考が働いているのかといった声もあった。また、協働の場面で調べたことの確認をするだけではなく、「深まり」や「広がり」をもたせる交流を行うためには、どのような視点を提示したり、教師が働きかけたりすると効果的であるかなどについて活発な協議が行われた。



3 指導助言 富塚西小学校 校長

児童の活動の様子を通して、個別最適な学びの授業スタイルが丁寧に積み上げられてきたことを感じられた。教室の掲示やスライドの作成、単元を通しての振り返りなど教師も児童も授業の進め方に迷いがなく、児童が主体的に集中して学習に取り組む様子が印象的であった。



今後、AIの活用が進む中で、今までの授業の在り方を変化させていく必要がある。用語を調べたり、要約をしたりすることをAIが担うようになると、だれがまとめても内容が均一なものになり、児童個々の思考を深めることにはならない。知識として得たものを、自分の考えにするために、協働の場面では「何のために話し合うのか」という問題意識をもって話し合うことが大切になる。歴史分野においては、過去とのつながりの中で、「どうして制度や政策が変わったのか」「その変化にどのような意義があるのか」など視点を示すことで、児童それぞれに考えをもたせることが大切である。

気賀小学校 教諭

1 授業公開「自動車を作る工業」

「自動車をつくる工業」の単元の第4時間目、自動車の工場で働いている人たちは消費者のどんな思いに気付きながら工夫や努力をしているのかについて考える授業が公開された。

本時では、児童一人一人が学習の方法や交流の相手を選択しながら学習が進められていた。子供たちの対話に重点を置き、活動を活発にするために、どのような視点があるかを事前に提示した。児童は、それらを参考にしながら、工夫や努力について、「安全性」や「正確さ」などに分類したり、学習課題を解決しようとしたりする姿が見られた。その際に「なるほど。」や「たしかにそうだ。」などの反応が多くみられ、児童の主体性が感じられた。



2 研究協議

今回の協議では、主に二つのことが話題となった。

一つ目は、学習の視点についてである。学習の視点がキーワードと共に明確に示され、また児童が理解していたため、働き手や消費者の工夫について調べたり、自分の考えを他者に伝えたりすることができたと考えられる。このように学習活動が盛んになった一方で、視点を明確にしたことで、児童の自由な表現を狭めてしまった可能性もあるのではといった意見も出た。



二つ目は、ペアやグループでの学びの姿である。教師の学級経営の努力が見られ、どの児童も安心して意見を伝えたり、肯定的な発言が見られたりした。また、他者の意見を聞いて、自分の意見に付け加えたり、考え直したりする姿が見られたりした。学習の視点を明確にすることに加え、教師が必要な介入をすることによって、どの児童も学習に参加することができていたと感じた。

一方で、学習につまずきの見られる児童に対して、どのような問い掛けや声掛けをしたり、資料を提示したりすることが効果的であるかについて検討することが必要であるという意見もあった。

3 指導助言 都田小学校 校長

子供たちは、これまでの学習を基に、自分たちから進んで学び合うことができている素晴らしい授業だった。主体的に学ぶ姿が見られるということは、その場で状況判断ができている証拠である。児童から「〇〇に聞いてみよう」や「まとめてみよう」といった発言が出ていることは、学習の中で自ら状況判断を行い、課題解決へ向かうという、主体的な学びが芽生えている証拠だ。主体的な学びは、単なる行動ではなく、その場で最善の選択をする「状況判断の質」にかかっている。今後は、より深い思考を促すために、児童の「なぜ」を問うための支援が重要になる。児童の自発的な判断を深い学びに結びつけるためには、教師の適切な支援が必要だ。今回、教師が机間指導しながら、困っている児童に対して、活動の方向付けや思考の整理を促す問いかける姿が見られた。また、振り返りの時間を設けることで、児童が自身の学習過程や思考を客観視するメタ認知の機会が確保されていたことがよかった。これは、主体的行動を内省し、次へと活かすためにとってもよいことだと考える。

